

Once upon a time in Utsunomiya

# 一枚の絵葉書から

石井敏夫コレクションより

第78回

重厚な石造りの  
栃木県農工銀行全景



行銀工農栃木

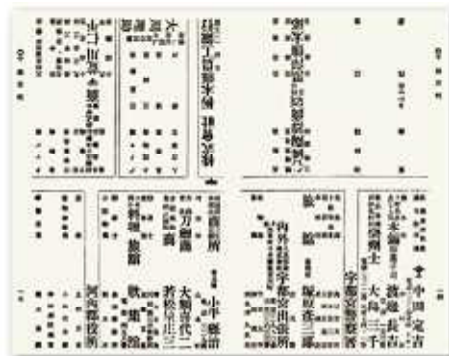
# 栃木県農工銀行

農工銀行とは、戦前、北海道を除く全国各地に存在した特殊銀行で、農工業の改良発展を目的に長期融資を行った。出自は、一八九六(明治二十九)年に成立した日本勧業銀行法と同時に成立した農工銀行法に基づくもので、栃木県には一八九八(明治三十二年)五月に設立された。宇都宮市議会議長を務め、初代宇都宮商業会議所(現宇都宮商工会議所)会頭に就任した五代目上野松次郎(二八六〇〜一九三九)が設立に尽力。初代頭取は下野銀行重役

の久保三八郎が就任し、六代目上野松次郎(二八八六〜一九五四)がのちに頭取を務めた。

栃木県農工銀行は資本金六十万円で発足。三万株のうち一万株を国庫補助金より出資し、残り二万株を一般に公募した。「宇都宮市史第七巻」によれば、「二万株に対し二倍以上の応募があったことは、当時の宇都宮中心の豪農・豪商の資本蓄積量の大きなことを物語るものである」と記され興味深い。同行は本店を池上町に置き、県内の中小企業主、農林業者の金融相談にあたった。それまでの普通銀行は商業を対象とする金融機関で、土地を担保とした融資は取り扱わなかったため、農工銀行の「農工業ノ改良発達ヲ計ルノ目的ヲ達スルタメニ不動産ヲ抵当トシ低利ニシテ長期ノ貸付ヲナス」という設立趣旨は、彼らを大いに力づけたことと思われる。

余談となるが、商都宇都宮に初めて銀行が設立されたのは一八七八(明治十二年)九月。第三十三銀行宇都宮支店(日野町)がそれである。続いて一八八六



「栃木県営業便覧」(1907(明治40)年発行)に記された同行

(明治十九)年三月に第六十銀行宇都宮支店(池上町)、翌年三月に第一国立銀行宇都宮出張所が開設された。最初の地方銀行である下野銀行(大工町)は、一八九二(明治二十四)年八月に創立され、十二月より営業を開始。初代頭取は矢板武、役員には先述した五代目上野松次郎らが就任した。一八九六(明治二十九)年七月には、足尾に支店を設けた宇都宮銀行が創立された。栃木県農工銀行は、「日本勧業銀行及び農工銀行合併に関する法律」により一九三四(昭和九)年十月一日、日本勧業銀行と合併、三十六年の歴史に幕を閉じた。跡地には日本勧業銀行宇都宮支店が開業、幾多の変遷を経て今日のみずほ銀行宇都宮支店へ引き継がれている。